

平成 23 年度日本コンクリート工学会第 2 回拡大幹事会 議事録

日 時：平成 24 年 2 月 29 日

場 所：愛媛大学工学部 2 号館会議室

出席者：氏家支部長，橋本幹事，古田幹事，甲斐常任委員，横井常任委員，森本常任委員，堺支部監事，岡崎(四国支部事務局)

配付資料

- 2-0 平成 23 年度日本コンクリート工学会第 2 回拡大幹事会議事次第
- 2-1 平成 23 年度日本コンクリート工学会第 1 回拡大幹事会議事録(案)
- 2-2 支部役員会と支部総会について・JCI 四国支部平成 23 年度および 24 年度役員名簿(案)
- 2-3 JCI 四国支部平成 23 年度事業報告(案)・平成 23 年度収支決算(案)・平成 24 年度収支予算
- 2-4 「四国のコンクリート需要の将来予測に関する研究委員会」2011 年度活動報告
- 2-5 「フライアッシュコンクリートの耐久性評価研究委員会」2011 年度活動報告
- 2-6 「コンクリートの強度に及ぼす養生条件に関する研究委員会」2011 年度活動報告
- 2-7 JSCE341 委員会報告書および講習会に関する資料
- 2-8 「平成 23 年度生コンセミナー in 徳島」& 「環境配慮型コンクリート構造物設置後の機能変化に関する調査研究委員会報告会」のご案内・生コンセミナー参加予定者一覧
- 2-9 平成 23 年度ダム工学会中国・四国地区現場見学会及び講演会開催のご案内
- 2-10 2011 年度コンクリート診断士講習会および試験のご案内
- 2-12 平成 24 年度事業計画
- 2-13 鉄筋コンクリート造耐震壁の開口の取り扱いに関する研究委員会設立概要報告
- 2-14 JCI 四国支部現場見学会(案)
- 2-15 残コン・戻りコン発生抑制及び有効利用に関する技術検討委員会報告会-参加募集-
- 2-16 平成 24 年 2 月定例理事会関連資料
- 2-17 2014 年次大会(高松)関連資料) ←資料番号が 2-13 となって重複していたため，2-17 に修正

審議事項

1. 支部長挨拶

氏家支部長より，拡大幹事会開催にあたって挨拶が行われた。

2. 平成 23 年度第 1 回拡大幹事会議事録確認

資料 2-1 に基づき，平成 23 年度第 3 回拡大幹事会議事録の説明が岡崎よりなされた。環境配慮型コンクリート構造物設置後の機能変化に関する調査研究委員会の開催が 24 年度となっていたため，23 年度(24 年 3 月)開催に修正する。また，四国支部選出の理事について，氏家支部長より橋本幹事から甲斐常任委員に変更した経緯の説明、連絡不足の不備のお詫びおよび今後の理事選出の考え方が確認され、甲斐常任委員への変更を了承した。以上の変更をもって議事録案の承認がなされた。

3. 支部役員会と支部総会について

資料 2-2 に基づき、支部役員会と支部総会について氏家支部長よりなされた。原則、支部総会で決議するものは、支部役員会で案を決めて、支部総会には案を附議し、総会の決議がなされれば案がとれるものとする、ということに基づき、支部の次年度事業計画および収支決算案、支部の当該年度事業報告案および収支決算案、支部長、監事、常任委員などの候補者の選出が決議されるものとする。なお、支部の次年度事業計画および収支予算は 3/7 に開催される支部役員会にて、決議が行われ、本部へ提出する。支部選出選挙管理委員は現在上田常任委員であるが、継続か否かは確認しておく必要がある。

平成 24 年度役員名簿に変更点があることが確認された。甲斐常任委員は本部理事も兼任するため、表記を変更すること、本部理事兼任となった場合の、支部役員数の変更の要否、田中常任委員の転勤に伴う委員交代についてなど、指摘がなされた。

4. 平成 23 年度事業報告書案および収支決算案

平成 23 年度事業報告書案について氏家支部長より説明がなされた。資料 2-3 に基づき、拡大幹事会、役員会、総会の開催について報告された。また、資料 2-4、2-5、2-6 に基づいて、四国のコンクリート需要の将来予測に関する研究委員会(委員長：大内雅博(高知工科大学))の活動は 1 年の延長ののち、計 2 年間の報告と委員会活動の終了の報告、フライアッシュコンクリートの耐久性評価研究委員会(委員長：上田隆雄(徳島大学))、コンクリートの強度に及ぼす養生条件に関する研究委員会(委員長：水越睦視(香川高等専門学校))の中間報告がなされた。

また、資料 2-7 に基づいて JSCE341 委員会講習会の開催報告、2-8 に基づいて今後開催される、平成 23 年度生セミナー in 徳島および参加予定者に関する情報と、環境配慮型コンクリート構造物設置後の機能変化に関する調査研究委員会報告会の概要が説明された。

見学会については、11/18 に開催のダム工学会主催分は盛況に終わったが、11/29 開催予定であった高知仁ノ海岸離岸堤工事見学会は応募者 1 名であったため、中止となったことが話題となり、開催日が近いことが応募者の少ない要因であったと議論が交わされた。

続いて、技士・診断士試験についての報告、コンクリート教育への助成、ホームページ運営、会員数について説明がなされた。会員数が 8000 名弱の現状に対し、毎年 400 名程度が強制退会となっている現状で学会収入の減少が強く懸念されているため、特に卒業学生の継続による会員の増強について話合われた。

また、平成 23 年度収支決算について氏家支部長より説明がなされた。表中は 2012 年 2 月時点の収支であり、今後人件費や総会関連通信費、生セミナー、役員会の開催による費用が決算されるため、収支差は現在表示の額より少なくなることが確認された。また旅費・交通費の欄に抜けがあるので補充する必要がある。

5. 平成 24 年度事業報告書案および収支決算案

平成 24 年度事業計画および収支予算案について氏家支部長より 2-12 に基づいて説明がなされた。研究員会は継続中の 2 件に加え、資料 2-13 に示すように、甲斐常任委員を委員長とする、鉄筋コンクリート造耐震壁の開口の取り扱いに関する研究委員会が発足することが報告された。

講習会については、コンクリートのポンプ施工指針&高流動コンクリートの配合設計・施工指針発刊に関する講習会が、土木学会四国支部との共催で高松にて夏頃開催することが確認された。また、生セミナー in 愛媛については、会場を愛媛大学とし、愛媛大学工学部環境建設工学科共催とすることで使用料を 0 とすること、講師については資料 2-15 に示す残コン・戻りコン発生抑制及び有効利用に関する

る技術検討委員会報告会で報告された方を招聘することが話し合われた。また、コンクリート技術の研鑽会を開催することが報告された。コンクリート技術講習会の一泊版であり、四国支部の学識経験者を中心に講師とするのがよいことを確認した。使用するテキストは過去のものを使用して良いか、プレゼン ppt は提供いただけるか確認する必要がある。

本部関連行事として、コンクリート診断士講習会、技士・診断士試験について説明がなされた。コンクリート診断士講習会会場であるサンメッセ香川では、いす・つくえの搬入・搬出は事務局で行う必要があるため、バイトの雇用が必要であることを確認した。また、香川県生コン工業組合から受け付け 2 名と男性 2 名が派遣いただけることを確認した。診断士試験においては、近隣の駐車場が使用できないため、香川大学工学部を使用するが、許容量が小さいため、満車の場合は駐車不可能の旨を案内しなくてはならない。なお、技士試験においては、近隣の駐車場が使用可能である。

見学会については、南海地震をテーマとして、高知港三里地区防波堤延伸工事を見学場所とする。参加費は 1000 円とするが、昼食をつけることとし、学生のスケジュールを勘案して 9 月下旬の開催とすることが決定された。

次に、平成 24 年度収支予算案について確認がなされた。講習会収入については、テキスト台の収入を 2 研究会で 5 万円計上すること、支出については、繰越金が収入を超えそうにある現状を踏まえて、幹事会費を 18 万から 25 万とすること、研究委員会費については、1 研究会あたり 25 万とし、3 委員会で 75 万円とし、大内常任委員の研究会報告の印刷費用 10 万円と併せて合計 85 万円計上する。なお、旅費が空欄であったため、修正が必要である。

また、収支予算案に関して、四国支部創立 10 周年記念行事について拡大幹事会で検討を始めることとした。

6. その他

堺監事から資料 2-16 に基づいて定例理事会の報告がなされた。JCI 年次大会における発表 PC は発表者が持参すること、本部役員候補の説明、JCI 東日本大震災の提言、技術委員会およびコンクリートサステナビリティ宣言について説明がなされた。

氏家支部長から資料 2-17 に基づいて、2014 年次大会(高松)について説明がなされた。当初、高松駅近隣の 5 会場としていたが、アルファ穴吹ホールは他 4 会場から遠いため使用しないこととなった。企業ブースについては、当初デラックスガレリアの使用を前提としていたが、ビル 1F の吹き抜けの箇所であって空調がなく、7 月初旬とはいえ暑さが懸念される。また、国内スペースについては、51 ブース、ブース区間を小さくすると 56 ブース可能であること、または、高額ではあるものの予算に余裕のある現状では ANA クレメントの使用も可能であること、など検討された。

横井常任委員から研究報告書の残部を HP から販売したいとの意見があった。委員会成果の広い周知のために、委員会報告書の販売に加え、会員にのみ pdf 化したものが HP 上で閲覧できるようにすることが提案され承認された。また、報告書は現在、各委員の委員長のもとで各々保管している現状であるので、すべて事務局で保管することが決定された。

以上